

# 貴金属ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2023/09/04号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



## 銀ETF、プラチナETF証拠金取引上場特集号（前編）

### 銀とプラチナの新たな投資商品上場！

銀



プラチナ



#### 「貴金属取引の新たな選択肢 プラチナとシルバー」

来る9月11日、東京金融取引所TFXで金ETF証拠金取引に加えて銀ETF証拠金取引とプラチナETF証拠金取引が加わる。貴金属の中でもゴールドはある程度一般的な投資対象商品だといえよう。しかしシルバーやプラチナになると俄然情報も少なくなり、一般の投資家が敷居が高いと考えても仕方がないだろう。しかし、ゴールドがまさに「投資用のメタル」であるのに比べて、シルバーとプラチナは工業材料である側面が強く、それだけに値動きもゴールドとはまた違ったものがあり、独自の値動き要因がある。現在ゴールドを動かす最大の要因は「投資家の動き」であり、その投資家がみている最大の指標は金利とドルだ。ゴールドはまさに金融要因で動いている。金利が上がれば相対的に投資家にとってゴールドの魅力は薄れ、ドルの対極としてドルの価値が下がればゴールドは上がる。同じ貴金属としてシルバーとプラチナもゴールドと同様の動きをするケースも多い。一方プラチナ独自の材料やシルバー独自の材料で動くことも多く、例えばプラチナの生産はその80%が南アに集中しており、南アの政治経済そして電力事情は大きくその相場動向に大きく関係してくる。またプラチナ需要の40%は自動車触媒であり、自動車産業がその需要の大きな部分をコントロールする。シルバーは太陽光発電パネルへの需要が増加を続けており、これが需給のバランスを供給不足へと向かわせている。プラチナとシルバーは、金融要因で動くゴールドの影響に加えて、より実需の動きが重要になる。マクロな金融要因よりも、ミクロな実需要因の方がわかりやすいとも言え、まさにコモディティの取引の醍醐味がある。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

## 【プラチナの基礎知識】

2023年プラチナ鉱山生産(171.4トン)



## 1. 資源としての偏在

プラチナとゴールドの大きな違いは、その需給構造にあります。ゴールドは世界中で万遍なく採掘されていますが、プラチナはその鉱山生産の80%は南アフリカとジンバブエが占めます。その他の採掘できる地域はロシアと北米(カナダと米国)であり、この三か所に限られます。つまりプラチナの供給は、この三地域、とりわけ南アの重要性が大きく、この国の経済政治状況が供給に大きな影響を与えます。現在南アの抱える大きな問題として電力不足があり、この問題に対する根本的な解決である発電所の新設は進んでいません。いつ何時プラチナ鉱山生産に支障をきたすかわからないリスクがあります。

2023年プラチナ需要(253.40トン)



## 2. 自動車触媒需要と水素社会触媒需要

プラチナの需要の40%が自動車触媒。元来ディーゼル車の触媒に主に使われていましたが、近来ではガソリン車にもパラジウムの代替として使用されています。また燃料電池車の触媒としてプラチナの量は一台あたりではディーゼル車の量をはるかに上回ります。自家用車にはEVが圧倒的なイメージですが、バスやトラックといった大型車にはFCVが優位であり、その触媒としての需要は今後大きく増加していくことが期待されます。また脱化石燃料のための水素社会では、水電解の電極としてプラチナが使われ、脱炭素の鍵となり、この分野でもプラチナ需要は増大していく見通しです。

## 3. プラチナのおすすめ中期的取引パターン

プラチナはここ数年大まかに言って900-1100ドルのレンジで取引されています。つまり900ドルを割れたらロング、1100ドルに近づいたら利食い売りというパターンのトレードが非常に高い確率で成功します。これは900ドルを割り込むと最大の需要を誇る中国の「実需投資家」が値ごろ感から必要以上の量を買ひ、現物を輸入、1000ドルを超えてくると利食いに動くという行動パターンが認識されるからです。このレンジは簡単には壊れそうにありません。このレンジ取引のかなめは、必ずロングから入るということです。上記のようなファンダメンタルズに強気材料ばかりあるプラチナが900ドル割れをしたところは買いから入るのです。1000ドルを超えたからといってショートから入るのはやはりリスクでしょう。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレマー)をお読み下さい。



## 【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>【E-mail】 [info@jbma.net](mailto:info@jbma.net)

## 池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は  
ツイッターで